

『褒めること』

ヤンゴン日本人学校 校長 萩野 幹夫

乾季の近づいた校庭にトンボの姿が見られるようになりました。

二学期初めの学校公開には、多くの保護者にご参観いただき、ありがとうございました。

『頑張っていたね』といいところを見つけ、お子さんを褒めていただけたでしょうか？

私は短時間ですが、教室での授業の様子を見回っています。保護者が参観すると、学年が進むにつれて緊張して、いつもよりとてもお行儀よく授業に臨んでいるのだなあと思いました。ある学年では、まだ参観者が一人もいないのに、授業が始まる前から席に着き、静かに始まりを待っていました。高学年になると、親を意識してかしこまるのは、社会性が身についた証しと考えます。

一方、低学年は、先生の話が耳にすっと入らず、注意されることがあるのはいつものようでした。自己が強く、まだまだ十分社会性が整っていない発達段階のこの時期には、自然のことです。他の子供と比較して、我が子を見るのは親の常で、ご心配する方がいたかもしれませんが、私の目には子供らしくのびのびしていると映りました。

三学期にも参観日がありますので、今後の成長を楽しみにしていただきたいと思います。

アメリカの臨床心理学者トマス・ゴードン博士が開発したコミュニケーションプログラムをテーマにした『親業』という有名な本があります。私が30代後半、教師としても、子を持つ親としても影響を受けた本です。直接的に「何々しなさい」とは言わないで、「何々してくれるとうれしいなあ」という式のたくさんの対応例が記載されています。優しい気持ちで子供と接する機会が多くなること必定です。子どもをたくさん褒めて、優しい気持ちで子育てをしていただきたいと思います。

さて、今年度から夏休み作品展と授業参観が別の日程になっていました。事情は、授業参観は、夏休みが終わったばかりでさらに転入生が20人を超えていたため、よりクラスが落ち着いた二週間後に設定しました。作品展については、四年生は美術家庭科室にて、ニクラス合同の社会科授業をしなくてはならないことと、多くの作品を教室に長く保管できる場所がないことなどの理由により、夏休み明け一週間程度の時期に行ったため、同時開催ができませんでした。新校舎が完成し教室の余裕ができましたら、同時開催しますので、来年もこのような実施になることをご理解いただきたいと思います。

<主な学校行事予定>

- 18日(水) ヒンドゥー教の祝日
- 21日(土) チルドレンフェスティバル
- 23日(月) 振り替え休日
- 24日(火) ヤンゴン外国語大学日本語学科学生インターシップ始
- 25日(水) PTA 読み聞かせ
- 30日(月) 世界のおまわりさん in ミャンマー 学校訪問
- 31日(火) 新校舎建設 起工式

『一人一人が輝く Hopeful Future ～チルドレンズフェスティバル～』

文化指導部主任 西野 裕明

Hopeful Future は今年のチルドレンズフェスティバルのサブテーマです。希望あふれる未来に向かって、日々前進を続けるヤンゴン日本人学校の子どもたちにとって、Friendship & Harmony のメインテーマと共に、大きな指針となっています。今年のチルドレンズフェスティバルは10月21日（土）です。

昨年度より、学年単位で行う演目のみの実施となったチルドレンズフェスティバルですが、今年も各学年趣向を凝らした演目を準備しているところです。幼稚部から中学部までの園児・児童・生徒それぞれが主役となって力を発揮できるよう、教職員一同、指導を続けています。

チルドレンズフェスティバルの開催にあたり、「日常の学習成果を発展させる」ということが、ねらいとして挙げられています。「舞台上に上がり演目を披露する」「招待校含め他学年の演目に関心をもつ」ためには、主体的に取り組む姿勢、互いを認め合う姿勢、が大切になってきます。舞台成果はもちろんですが、子どもたちが日々の学習や生活を通して、学び育ててきた力や姿勢にも注目していただけると幸いです。

今年、4校の現地校を招待し、発表をしていただきます。子どもたちにとっては、楽しむことはもちろんですが、「異なる文化の良さを理解し、尊重する」ことの大切さを学ぶ機会となってほしいと願っています。

一人一人が Friendship & Harmony ～Hopeful Future～を胸に練習に取り組み、21日の本番を迎えます。どうか、あたたかいご声援を、よろしく願いいたします。

『幼稚部の活動』

幼稚部主任 クラーク潤子

あるお昼休み、いつもの様に子どもたちがクラスで遊んでいると、窓の向こうに小学生が集まり出しました。彼らが歓声を上げながら見入っていたのは、ある園児が朝から一日かけて自分の背よりも高く積み上げていた積み木遊びの様子でした。「積み木でこんなに高く積めるんだあ。」「幼稚部にこんなにたくさんの積み木があるなんて知らなかった。」との感想に、意外と幼稚部の活動はあまり周知されていないのだと驚いたのでした。YJS 幼稚部の保育は、日本の幼児教育要領に基づき構成され、マンマーにいなながらも、季節の行事など日本の伝統的文化をできるだけ取り入れた保育を実施するよう工夫を凝らしております。（活動の様子は毎月更新されます幼稚部の HP にて写真付きでご覧いただけます。）先月には日本の『敬老の日』に合わせて子どもたちがプレゼントを作り、それを郵便ポストに一人ひとりが投函するという活動を行いました。毎年恒例のこの活動は、遠く離れたお祖父様、お祖母様にもお孫様の元気な様子を知っていただけると大変好評です。また日々の活動は、子どもたちに是非とも経験させたいことがらを、幼児期にふさわしい遊びを中心に構成しております。マンゴーの木漏れ日の中、砂場で気持ちよく遊んでいると、休み時間の児童生徒たちによく羨ましがられますが、幼稚部で行われる造形や運動、英語、食育などの様々な活動は、定められたねらいの元、子どもたちが楽しく経験します。今年のチルフェスでは言語・表現活動の劇遊びをご紹介しますので、子どもたちを温かく見守っていただければ幸いです。

UFL(ヤンゴン外国語大学)生インターシップについて (10/24-10/31)

今年度より、マンマー人大学生が日本の教育現場を体験することで、日本式と言われる義務教育の理解や日本文化を深めるなど日緬友好を考えた取り組みを行います。

日本語学科の教授推薦により、大学の休業期間を利用して10月と5月の2回、1週程度、大学生（第3～4学年）が、実習を行います。授業参観・授業補助・意見交換・掃除・昼食・社会科学見学・行事の手伝い等積極的な参加をお願いしています。